

東海村平和委員会が、東海村内スポット演説を継続的に実施！

毎週水曜日の午後1時から、休まずに！



12月28日は7人が参加。2台の車それぞれにハンドマイクを積んで分乗し、「東海第二原発の20年延長反対。稼働をさせずにこのまま廃炉」のスポット演説を計25ヶ所で行いました。通行している人から「ご苦労様」などと声を掛けられ、遠くから手を振って挨拶する人も多くありました。

第2回は、1月18日（水）、午後1時から3時まで、5人が参加しました。1回目と同様に2台の車それぞれにハンドマイクを積んで村内を回り、3～5分のスポット演説を2台合計で16ヶ所の訴えを行いました。初めて参加した人も元気いっぱい訴えました。

第3回は1月25日（水）、午後の同じ時間帯を、4人が参加。前回同様、2台の車それぞれにハンドマイク等を積み、村内15ヶ所で訴えました。

東海村平和委員会会長はスポット演説の最初にいつも大きな声で「白方の川崎です」と身分を明らかにして始まります。訴えている

最中を通りかかった村民が、「頑張ってるね」「ご苦労様」などの声を掛けてくれます。笑顔で手を振ってくれる人も一人や二人ではありません。何よりもいやがらせ等が一切ないことに励まされています。参加したHさんは「いやーっ、廃炉を訴えることはダメっていうことはないね。よく聞いてくれる。」とうれしそうに感想を語っていました。

県平和委員会は組織を擁する団体として、3年前に畳4枚大の大型看板を東海村村内3ヶ所に設置しました。A2版の大型「廃炉ポスター」120枚貼り出すなど、「東海第二原発廃炉」訴えの可視化を意識して取り組んでいます。

今後も東海村平和委員会を中心に、県北グループから直接、全県からワンコイン等の支援を受け、「東海第二原発の20年延長に反対、廃炉」を訴える個人、団体にも広く呼びかけ、連携して廃炉の取り組みを進めることを決意しています。

ヒバクシャ署名で地域の民主団体と「推進連絡会」結成！

目標を掲げ、連帯して取り組む 大宮と美和・緒川と！

核兵器廃絶は世界の平和にとって非常に重要な問題です。核所有国は核を脅しの道具とし世界に君臨しています。核兵器の廃絶は急を要します。常陸大宮、美和・緒川では平和委員会や国民救援会が呼びかけ、昨年末に「ヒバクシャ署名推進連絡会」を立ち上げ、全体で3000筆を目標に取り組んでいます。3月の国連の協議に提出します。

美和緒川平和の会は「1人20筆以上」を目標に掲げて取り組みましたが、昨年末に目標を達成しましたので、取り敢えず「取り組みを終了」としました。しかし他の団体が目標に達していませんでした。そこで推進連絡会は1月、2月の日曜日のすべてを署名統一行動日に設定しました。連絡会は市内の住宅団地をすべて戸別訪問する日程を立てました。連絡会に結集した人たちは、「参加できる日を登録する」という方法で取り組

んでいます。3月に提出しますが、引き続いて6月にも国連で核廃絶の協議が開かれますので、どのように対応するかを考えなくてはなりません。

戸別訪問で署名に行くといろいろな声を聞けます。「いやあ、北朝鮮の事を考えたら、核兵器のひとつやふたつは持っていないとまずいだろう」といわれたこともあります。この考え方は安倍首相の論理と同じです。まだまだこのような考えの人も多いのです。

核兵器は平和への最大の凶器であることを自覚した取り組みこそ必要だと考えています。またヒバクシャ署名は、安倍の暴走政治を包囲する1つの方法です。そういう意味でもさらに多くの人たちに訴えて行かなくてはならないと考えています。



写真は19行動「レッドアクション」



毎月19日は「戦争法廃止」の統一行動日 水戸でも！

「レッドアクション」と共同した戦争法廃止！



1月19日（月）、12時から、水戸駅南口で「レッドアクション」と「戦争法の廃止を求める茨城県民連絡会」の共催による「戦争法廃止 トーク&アクション」が取り組みました。参加者は思い思いにトークに参加しました。

自衛隊の南スーダンからの撤退は当面の切実な問題です。「戦争法」の発動が自衛隊員一人一人にとって、現実の生死にかかわる状況を生み出しています。安倍首相や稲田防衛相は「戦闘や武力紛争はない」と言っていますが、実際の南スーダンの内戦の泥沼状態です。しかもそれがいつ民族間の大虐殺に発展してもおかしくないという深刻な状況になっています。即時撤退しかありません。参加者はそれぞれに戦争法廃止の思いを訴え、平和委員会作成のカラーチラシを250枚配布しました。



歓迎！新入会員のみなさんです。よろしくお祈りします。

- ** ** さん (つくばみらい市)
- ** *** さん (石岡市)
- ** *** さん (潮来市)
- ** *** さん (潮来市)

*ともに平和の声を大きく広めていきましょう！

平和新聞

2017年2月5日（日曜日）
2130号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 768

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

桜川市市民会館に200人余が結集！ 熱気の中で！ 「衆議選茨城1区地域市民連合」 結成される

「県市民連合」は次期衆院選に向け、県内7小選挙区にそれぞれ「地域市民連合」を設立しようと提起し、昨年10月30日、つくば・土浦が結成されました。

1区地域市民連合結成集会は1月22日（日）、桜川市の岩瀬中央公民館で開催されました。共同代表の1人である谷萩陽一弁護士から「結成宣言案」が提案され、参加者の大きな拍手で採択されました。「野党共闘、新しい歴史は市民がつくる：福島経験から」の演題で記念講演した坂本恵福島大教授（ふくしま県市民連合呼びかけ人代表）は、野党陣営が県民・市民の願いにこたえる政策を練り上げ・議論し・幅広い層に呼びかけることの大切さを訴えました。ゲスト・スピーチとして、衆院茨城1区に立候補を表明している民進党・福島伸享衆院議員、日本共産党副委員長・大内くみ子の両氏が、それぞれの思いを語りました。



「田村武夫県市民連合事務局長からのメッセージ」

市民連合各位

昨日（1月22日）、桜川市で開催された1区地域市民連合結成のつどいは200名を超す参加者および多岐にわたる報告や質疑応答もあって成功したと評価しています。

とくに、民進党の福島議員と共産党の大内候補がそろって姿を見せたことへの喜びを語られた参加者の発言が印象的でした。

記念講演（坂本恵福島大教授）も分かりやすく、野党共闘・候補者統一の実現プロセスと意義を説明され、とくに候補者が変化していった過程の印象記は興味を惹きました。

インフォーマルな形での対話を積み重ねることで壁を打開していったことの重要性を語られたところは、労働組合や政党県本部との意思疎通の困難さを実際に経験された方の本音を吐露されたと受け止めました。

共同代表も病身の原中さんを除いて全員が出席され、とくに最後に代表挨拶された酒井・島田両代表と閉会の辞を述べられた鈴木代表は、公式の集会では初めてのスピーチ登場でしたが、聞

くものに活を入れる訴えで元気をもらうことができました。

つどいはスタートであり、これから野党共闘・選挙協力・候補統一実現に向けて粘り強い働きかけや説得活動が待っていると自覚しています。

とくに、記念講演で、「候補者に（政策）要求を出していく」「受け止めさせる」ことが候補者の姿勢にとっても選挙活動する活動家の心構えにとっても鍵だという指摘を実行するため、3地域市民連合同で3地域内定候補者を一堂に集めて大がかりな意見交換会・対話集いを模索してみようと考えています。

政党も、主催者の、代表との政策対話・意見交換会という催しなら拒絶できないと考えます。

などなど工夫して、私たち市民が政党連結・野党共闘を一步步実現していきたいと期待しています。

今後とも、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

1月23日 田村武夫

衆議院第3区で、3つ目の地域市民連合！

「市民と野党をつなぐ茨城3区市民連合」 結成！

取手、牛久、龍ヶ崎の衆院第3区で、「市民と野党をつなぐ結成の集い」が、1月29日（日）、取手市福祉交流センターで300人が結集して開催されました「市民と野党をつなぐ会@茨城3区」と「茨城県市民連合」との共催でした。呼びかけ人は、元美浦村長の市川さん、元阿見町町長の川田さん、総がかり行動実行委員長の遠藤さん、年金者組合支部長富山さんなど6人が名を連ねました。会場はあふれんばかりのたくさんの皆さんが参加しました。

結成の呼びかけは「野党と市民の共闘の発展が一層求められています。来る総選挙での野党勝利へ」「野党統一候補の実現へ、市民サイドからの取り組みを進める」と高らかに宣言しています。

共同代表の遠藤俊夫さんは挨拶の中で、野党共闘の必要性を強調し「安倍政権の支持率が高い。それは野党が批判の多い安倍政権の受け皿となっていないからだ。」「昨年の参議院選では、野党統一候補が善戦した。同じ現象をこの茨城でも起こさなければならない」と強調しました。

記念講演は、昨年の参議院選で無所属の野党統一候補になった山形県の船山康江参議院議員が「野党共闘をどのように実現したか一山形のたたかい」と題して講演しました。藤代平和委員会から事務局に参加した根本さんは「今の政治をおかしいと感じている人たちとはだれとでも連帯することの重要性を教えられました。」と語っていました。



「衆議選茨城1区地域市民連合」のつどいに参加して

「平和の会しもつま」の会員は、代表の為我井を始め7名（プラス会友1名）が参加した。

衆議院の選挙区はわかりづらく、当該1区は水戸、笠間、筑西、桜川、下妻、城里がひとまとまりに。このくくりがよくわからないし、更には下妻市の中の旧千代川地域は、今だに合併前と同じ7区に組み入れられている。

当日の参加者は200名、あるいは200名を超えたとの発表だったのかメモしなかったので確かではない。この数は多いのか少ないのか、私にはわからないが、役員名簿のお名前も、あいさつされた共同代表のお顔も、初めての方が多かった。結成された皆さんの層がそれだけ広範囲なのかな、という印象をもった。記念講演で「福島市民連合」の呼びかけ人代表である坂本恵福島大教授が語ったような野党共闘・候補者一本化・選挙勝利への道を切り開けるか、「県労連」の扱いひとつとっても“容易な道のりではないな”というのが率直な思いである。とりあえず、明日からどうすれば？と考え、行き着く所はやはり自分が依拠する所（平和の会）で相談するしかないな、そこで出来ることを探してやっていくしかないな、という当たり前な結論で落ち着いた。（平和の会しもつま・青木勇）